

22 世紀八幡ルネッサンス運動 (略称：八幡ルネ) 企画作業チームニュース

ひるば

八幡市民の幸福の増進のために活動する。古い歴史を有する八幡の秀でた伝統を継承し、八幡市民の総意と英知を結集して活動する。町の隅々にわたり高い関心を払い、たくましい意志と情熱を貫いた粘り強い行動で、光とるおいある生活と文化を享受するように努める。

■発行：22 世紀八幡ルネッサンス運動
企画作業チーム ひろば編集部

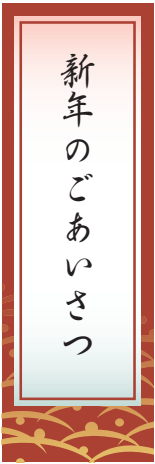
■事務所：八幡市八幡高畑 10-76
TEL/FAX075-981-6505
090-3710-4842

■橋本連絡所：八幡市橋本興正 7-4 075-971-9488

■男山連絡所：八幡市男山指月1-12 080-3780-6140

■八幡連絡所：八幡市八幡土井135 竹島文化2F13号

■振込口座：京都中央信用金庫八幡支店
普通 5243582
22 世紀八幡ルネッサンス運動



あけまして
おめでとうございます

1998年に活動を始めた八幡ルネッサンス運動(以下 八幡ルネ)は、2028年に丸30年を迎えます。

できれば、結成30年の記念行事を行いたいんだけど、貧乏団体のために行事執行にともなう資金が不安で、決断には至っておりません。皆様方の大きな助けがあればと、つい甘い考えに走ってしまいます。

八幡ルネの結成以来の中心的活動である清掃活動は、自画自賛もあると思いますけれど、随分と頑張ってきたし、街も綺麗になってきたし、なによりも清掃に協力していただける姿にお目にかかる機会も増えて、それなりの役割を果たしているのではないかと考えております。

最近、気候変動のことが大きく取り上げられております。
昨年9月18日、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の首脳級会合で「達成は危機的状况にある」と強調され、グテレス国連事務総長は「SDGs は単なる目標の羅列ではない。人々の希望と夢、期待が込められている」と述べました。

各国が二酸化炭素排出削減に取り組む、日本でも国、地方自治体、企業、市民団体などカーボンニュートラルを目指しています。しかし大事なことは、技術革新は当然ですが、それにもなう資源や材料使用で排出される二酸化

炭素などのグローバルな見方が依然と弱いのではないかとことです。
八幡ルネもいろんなルートを通じ、気候変動の解決に向けて取り組みたいと思っています。
市民の皆様におかれましては、コロナやインフルエンザの流行、金権政治の横行、引き続きロシアのウクライナ侵略と、新たに発生したイスラエルのガザ殺戮という胸の痛い事柄が続く中ではありますが、くれぐれも健康に留意されてお過ごし下さるようお願い申し上げます。

八幡27年1月1日(2024年)
呼びかけ人一同

《呼びかけ人》

- 伊藤錚治 田久保裕 福川肅 杉山恵美 石川未来子 村岡時男 天野みどり 石野喜幸 伊藤文彦 貝通丸哲也 所埜聖司 谷本信義 立花ヒロコ 高橋千代子 神田長子 土井三郎 藤原洋 日高幹夫 出口修 山口克浩 武田守治 堀江正彦 宇治川春子 中村久雄 窪田潤子 須藤邦弘 沢田三彦 猪飼康夫 中野玉美 松川啓子 伊佐錠治 中井恵美子 福田英正 佐藤長作 竹萬稔 田中和 杉山隆 小川和彦 鍋川浩二 堀涉 東龍一 藤田直子 吉川せい子 小山愛子 武部輝雄 その他2名 計47名

《お願い》

日頃の八幡ルネの活動や趣旨にご賛同していただける「呼びかけ人」をお願いしております。

ご賛同いただいた方の行動は自由で、制限はありません。会費もございません。私としてはなるべく多くの方々からご賛同をいただきまして、活

動への励みにしたいと思っております。もし、都合により辞退したいとの申し入れがあった場合には、すぐに辞退として取り扱わせていただきます。呼びかけ人になっていただいた方は、夏の「暑中見舞い」と冬の「新年あいさつ」にお名前を掲載させていただいております。

呼びかけ人にご賛同いただけるお気持ちの方は、事務所が近くの会員までご連絡をお願い申し上げます。

石炭火力発電について考える

佐藤長作

2023年3月時点(Japan Beyond Coalの資料)で、石炭火力発電所は、運転中…170基、計画…1基、建設中…3基となっています。

石炭火力は発電量に対する二酸化炭素の排出量が最多で、同じ発電量でLNG(液化天然ガス)火力の2倍の量を排出します。

なぜ、石炭火力発電所の建設推進を止められないのでしょうか。推進側の経済的意図から考えてみます。

原子力発電や水力発電に比べて建設費が安い、電源立地の制約が少ないなどがあげられます。

神戸市灘区には、全国で唯一、住宅地のご真ん中で石炭火力発電4基が稼働しています。2022年2月、2023年2月に新たに2基が稼働しました。旧2基は約10年稼働しています。工場敷地内で立地の制約はほとんど無かったのでしょうか。

しかし、世界では排出量ゼロを目指す活動が進められていても、なぜ新規

の石炭火力発電所2基の新たな建設なのでしょう。

日本は国内で石炭火力発電を推進しているばかりでなく、公的資金で中国に次ぐ世界第2位の規模で海外での石炭火力を支援し、国際的な批判を浴びています。日本の主な支援先の一つがインドネシアです。

インドネシアの石炭火力発電事業はいずれも、日本政府出資100%の国際協力銀行(JBIC)や、政府開発資金援助を行う国際協力機構(JICA)が支援。政府の「インフラ輸出戦略」に合致するとの理由からです。事業を実施する各現地法人は、電源開発(Jパワー)や関西電力、JERA(中部電力と東京電力の共同出資会社)、伊藤忠、住友商事、丸紅などが出資しています。これらは、国内での制約から海外に販路を求める企業の利益追求の姿でしょう。

それは、現地での発電所設計に現れています。日本の石炭火力発電所以前から利用されている硫酸酸化物対策の装置なども装備せず、現地のゆるい基準に合わせていることです。自然環境に考慮することなく、コスト重視の姿勢が見え隠れしています。

建設予定地は肥沃な土地でしたが強制収用され、漁民はふ頭をつくる浚渫土の不法投棄で漁網の被害を受けています。

二酸化炭素を大量にまき散らし、その土地の生活や自然を壊すプロジェクトが支持されることはないでしょう。経済(利益)優先の価値観は、どこへ進んでいくのでしょうか。立ち止まって考えてみましょう。

大谷川清掃レポート

2023・12・30

マンリョウ

マンリョウは暖地の林に生えるサクラソウ科の常緑低木です。実は冬に真っ赤に熟し、ナンテンやセンリョウとともに正月の飾り花に使われます。(以前はマンリョウ科でしたがAPG分類体系でサクラソウ科になりました)

商売繁盛の縁起植物として、センリョウ、アリドオシと合わせて、「千両、万両、有り通し」と縁起かつぎ……。

鳥類は人間と色覚がよく似ているそうです。赤い色は緑の補色で、鮮明なコントラストを生み出す目立つ色です。

赤い実はつやつやして美味しそうに見えますが、鳥には「まずく」て人気がないようです。

植物生態学者によると、実を美味しくするには貴重な栄養分を分配しなければならので「外皮だけを美味しそうに見せている説」。美味しくしてしまうと鳥は好きなので場所にとどまり食べつくしてしまう、種子がほかの場所に運ばれないという「わざとまずくしている説」。

マンリョウの種子は発芽阻害物質を含んでいて、そのまま蒔いたのでは芽が出ません。鳥の消化管を通じてはじめて芽が出るように細工されています。同じ場所で芽が出るのを防いでいるようです。

また葉の縁には葉瘤ようしゅがあり、窒素固定を行う共生バクテリアが囲われています。葉を透かすと赤黒い点は

「油点」と呼ばれ、防衛成分の貯蔵庫です。機会があれば葉を観察してみてください。

舞台大谷川の清掃は、河原の除草作業を重点に3名で行いました。今年は、酷暑のために除草作業が何度か中止になりました。そのために、草が生い茂る状態でした。次の年の芽吹きが始まるまでには、橋と橋の間の除草を済ませたいと考えています。

山路大谷川の清掃は、プラごみ回収や、土砂の撤去を行いました。また、Nさん家族は、第二京阪沿いのプラごみなどのゴミ拾いで、70リットルゴミ袋で3袋回収しています。

◆12月3日、第96回舞台・大谷川清掃は5名の参加で、70リットルポリ袋19袋、土嚢1袋回収しました。

◆12月24日、第177回山路・大谷川清掃は8名の参加で、土嚢袋換算115袋回収しました。

【第178回

山路・大谷川の清掃のご案内】

■日時：1月28日(日)

午前9時半～正午(雨天中止)

■集合：旧あずま屋

(コノミヤ裏八幡源氏垣外)

※会場設営にご協力いただける方は、集合時刻の30分～1時間前に現地にお集りください。

※用意して頂く物・厚手の手袋。その他の必要な物は用意します。

【第98回

舞台・大谷川の清掃のご案内】

■日時：2月4日(日)

午前9時～11時半(雨天中止)

■集合：大谷橋下流の休憩所

(ベンチあり)

※会場設営・用意して頂く物は山路・大谷川と同様です。

《主催》NPO法人22世紀八幡ルネッサンス協会

連絡先：八幡市八幡高畑10-76

Tel 075 (981) 6505

携帯090・3710・4842

八幡の名所を俳句に詠む

3

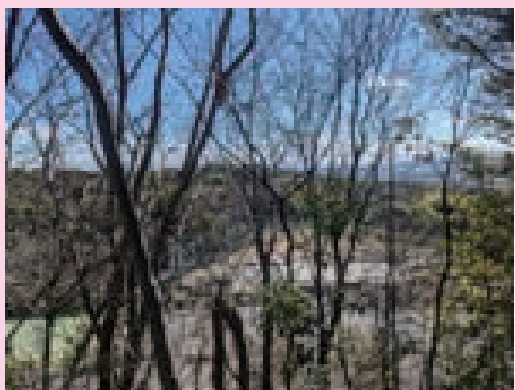
土井三郎

男山

木漏れ路に枯葉踏みつつ男山

男山や三川合流の地である八幡は自然に恵まれ、石清水八幡宮をはじめ豊かな歴史文化が息づいている。その男山には、3つの散策路が指定されていた。ひだまりコース・こもれびコース・さざなみコースがそれぞれある。こもれびコースは、男山レクセンを出発し、標高142mの鳩ヶ峰山頂を経て神応寺の境内をぬけるコースである。四季折々の表情を見せ、冬になれば枯葉を踏みつつ歩むことになる。見晴らしの良い所もあり足腰が鍛えられる。そのこもれびコースが2023年3月に閉鎖された。安全が保障できないとの理

由によるが、ハイキングを楽しむには絶好なルートであり、安全が確保され、復活するよう望むものである。



円福寺

今年また大根吊す修行寺

八幡福祿谷にたたずむ円福寺は、天明3年(1783)に創建された。妙心寺派の古刹であり、修行の寺として知られる。例年、冬になると山門の前の銀杏の太木に大根が吊される。偶々訪れた日が、修行僧(雲水)によって大根を吊し上げる作業日であった。千本の大根は、すべて托鉢によって頂いたとのこと。天日干しされ、沢庵などに供されるが、その日、来訪者にふるまわれた、みそ煮の大根の美味しかったこと！



石清水

巫女の手の神矢あらたか石清水

八幡宮の神矢は、元寇の折、勅命によって叡尊が石清水にて敵国調伏の祈禱を行った際、石清水より発せられた神矢が暴風雨をもたらし、そのため蒙古軍が退散したという神話に基づく。以来、武運長久はもとより、武芸の上達、開運、招福をもたらす矢として信奉された。正月、本殿に立てられる2本の大竹は男山からもたらされるとのことである。

